

第4学年 音楽科 学習指導案

本時の主張

前時では、歌う、言葉のリズム打ちをする、楽譜から音符やスタカートなどの記号を探す等しながら、「パレードホッホー」の $\boxed{\text{ア}}$ （弾む感じの旋律）と $\boxed{\text{イ}}$ （なめらかな感じの旋律）を比較検討し、それぞれの旋律の特徴に合った歌い方を工夫する学習を行っている。しかし、旋律を重ねて歌うという合唱の経験はまだなく、異なる特徴をもつ2つの旋律が引き立つように重ねて歌うための工夫については気付いていない。そこで、本時ではねらいを達成するために、次の2つの手立てを講じる。

- ① 「重なりポイント」($\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ の両方の旋律が引き立つように歌うための工夫)を考えさせることで、「工夫すること・工夫するところ」を焦点化した学習を展開する。
- ② 歌い手・聴き手と立場を換えて試奏する活動を組織し、歌ったり聴いたりしながら歌唱の工夫を考えさせる。

これら2つの手立てにより、子どもは異なる旋律が重なって演奏される面白さを感じ取り、両方の旋律が引き立つように歌うための工夫をすることができる。

1 題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう

「ファランドール」ビゼー 作曲（鑑賞曲）

「パレードホッホー」高木あきこ作詞/平吉毅州 作曲（歌唱曲）

2 題材の目標

- 旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫したり、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌ったりすることができる。
- 旋律の特徴、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くことができる。

3 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|---|---|--|---|
| ① 「ファランドール」（鑑賞曲）で、曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて、進んで聴く学習に取り組もうとしている。（鑑賞） ② 「パレードホッホー」（歌唱曲）で、旋律の特徴や重なりに興味・関心をもち、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。（歌唱） | ① 「パレードホッホー」の互いの旋律が生きるようにするにはどのように工夫して歌うとよいか、思いや意図をもっている。（歌唱） | ① 「パレードホッホー」で、曲想の異なる部分の面白さを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌っている。（歌唱） ② 「パレードホッホー」で、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて、曲想にふさわしい表現で歌っている。（歌唱） | ① 「ファランドール」で、旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて聴いている。（鑑賞） |

4 題材と指導の構想 (全5時間)

(1) 題材と児童

① 児童について

これまでの音楽の授業では、「どんな感じか」を想像しながらよく聴くこと、そして、「どうしてそう感じたのか」を楽譜から探ったり、体で表現したりしながら学習を進めてきた。そのため、「どんな感じがしたかな」「どうしてそう思ったのかな」などの問い掛けに、じっくりと考え答えを探そうとする子どもが増えてきている。また、楽譜や範奏からスタッカート、強弱記号、タツカのリズムに気付いたり「〇〇な感じがするのはスタッカートがあるからだな」と曲想を感じ取ったりする子どもの姿も見られるようになってきた。さらに、スタッカートや強弱記号が十分表れるように演奏の仕方の技能を身に付け、演奏に生かそうとする子どももいる。音楽に対して、新しいことを知りたい！できるようになりたい！と意欲的な子どもに育ってきている。

鑑賞については、よく聴いて旋律の特徴に気付いたり曲想が変わったところを捉えたりすることのできる子どもが多い。体全体を使って表現する活動も常時取り入れているが、[音色、リズム、強弱、速度]を感じていてもそれを表そうとする表現にまでは至っていない。「体を自由に動かす」だけではなく、「手拍子で表す」「歩き方で表す」など、音楽を特徴付ける要素や仕組みが分かる動きに替えていく必要がある。

歌唱については、5月「ゆかいに歩けば」を使って、旋律の特徴を捉えること・旋律の特徴に合った歌い方を工夫することを学んでいる。その後も5月の授業で学んだことを生かしながら、今月の歌「大空賛歌」「ゆかいに歩けば」を曲想を感じ取って楽しく歌っている。

本題材は、合唱への導入となる。友達と声を合わせる楽しさ、重なる面白さを十分に味わわせるとともに、一つ一つの気付きを大切にしながら学習を進めていきたい。

② 題材について

本題材は、「ファランドール」の鑑賞の学習での学びを生かして、「パレードホッホー」の歌唱を工夫する学習へとつなげていく、という鑑賞と表現の関連を図った題材計画とした。本題材で扱う、「ファランドール」(鑑賞曲)、「パレードホッホー」(歌唱曲)は、対照的な旋律が重なっているという同様の特徴がある。全5時間の題材構成により、[音の重なり]によって生み出される曲の面白さを感じ取ることができる。さらに、感じ取った面白さを表現することで、旋律を重ねる楽しさを感じることもできる。このように、鑑賞と表現をつなげて学習を進めることで、曲の面白さを感じ取って聴いたり表現を豊かにしたりする感性を育てる授業を展開していくことができると考える。

○ 「ファランドール」

1, 2時間目で扱う鑑賞曲「ファランドール」は堂々として迫力のある「王の行進」と、軽快で弾んだ感じの「馬のダンス」が掛け合ったり重なったりする構成となっている。この2つの旋律を図形で表した図形譜を見たり主な旋律を聴き比べたりすると、その違いに容易に気付くことができる。

- ・ 王の行進 (主な旋律の図形譜)
教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P31

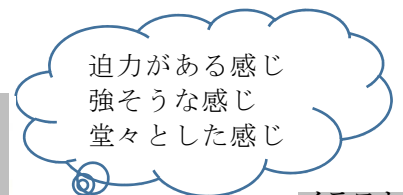
♪一つ一つの音が大きい ♪伸びているリズム

♪ホルン・バイオリンの低く重い音色

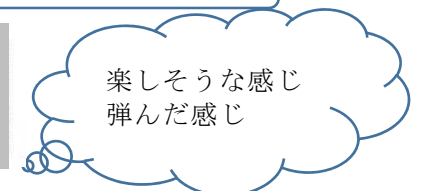
- ・ 馬のダンス (主な旋律の図形譜)
教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P31

♪一つ一つの音が短く切れる ♪細かいリズム

♪フルート・バイオリンの高い軽やかな音色



イラスト

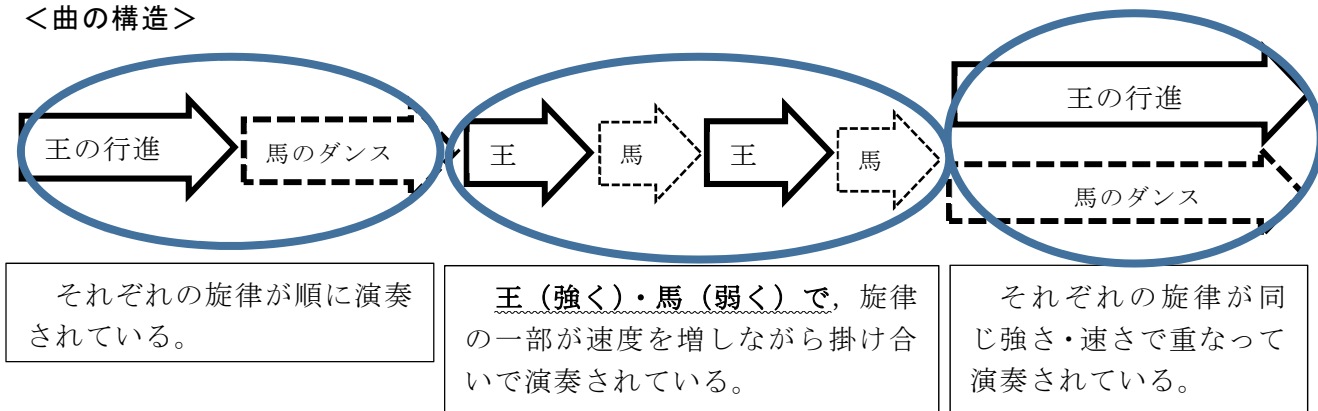


イラスト

この2つの旋律を比較させながら聴くことで、それぞれの旋律の特徴が対照的であることがはっきりと分かる。〔音色、リズム、強弱、速度〕を手掛かりにしながらかけることで、子どもは聴き比べて感じたことや楽譜（図形譜）を見て分かることを話し合いながら、それぞれの旋律の特徴に気づき、その面白さを感じ取ることができるであろう。

さらに、「ファランドール」の全体を見ると、次のように2つの旋律が掛け合いをしたり重なったりしながら演奏されている。掛け合いの面白さ、異なる特徴をもつ2つの旋律が重なる面白さを感じ取ることのできる楽曲である。

<曲の構造>



○ 「パレードホッホー」

3, 4, 5時間目で扱う「パレードホッホー」も、「ファランドール」と同じように、対照的な旋律の ア と イ が、「順に演奏する→ ア と イ を重ねて演奏する」という構造になっている。そのため、「ファランドール」の学習と同様に旋律の特徴や曲の構造をとらえることができる。

この曲の構造を生かして、「順に→重なる」と演奏の形態ごとに区切りながら聴かせることができる。一つの部分だけを鑑賞させ、主な旋律にどんな特徴があるか聴き取らせる。また、前半部分、後半部分と順に聴かせ、2つの旋律がどのようなかわり方をして演奏されているか焦点付けて鑑賞させることもできる曲である。また、前時で行った図形譜を使って並べ方を考える活動を行うことで、曲の構造を可視化しながら理解することもできる。

ア：弾む感じ

教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P30

イ：滑らかな感じ

教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P30

(2) 指導の構想

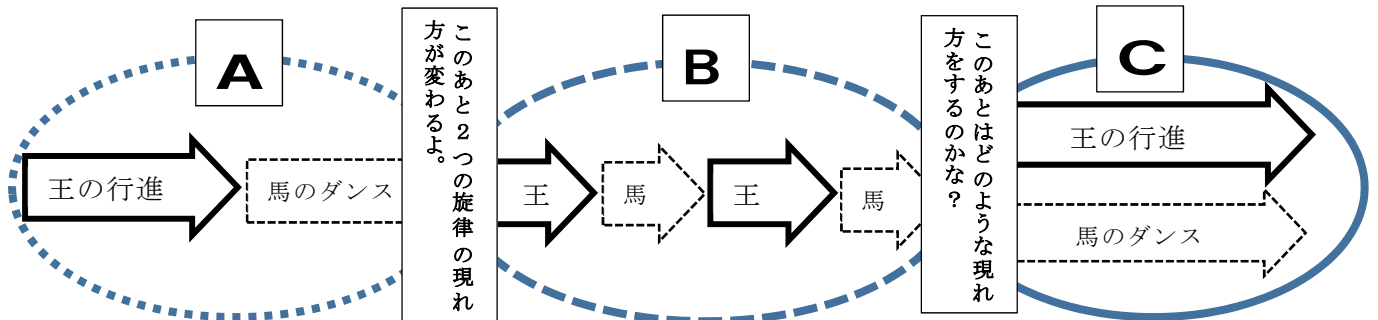
本題材は、平成29年3月に告示された小学校学習指導要領の以下の点を受けて設定した。

第3学年及び第4学年

- A 表現 (1)ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ウ)の技能を身に付けること。
(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
- B 鑑賞 (1)イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。
〔共通事項〕ア (ア) 旋律、音の重なり

① 鑑賞の学習では

「ファランドール」の鑑賞の学習では、「王の行進」と「馬のダンス」が順に演奏されている部分、掛け合いの部分、重なる部分と3つに分けて鑑賞の学習を行う。



Aは、それぞれの旋律が順に演奏されている部分である。ここでは、[音色、強弱、速度、リズム]を手掛かりにして旋律の特徴を聴き取ったり、手拍子や足踏みをして旋律の特徴を感じ取ったりしながら、それぞれの特徴に十分触れ楽しませる。Bは、王の行進(*f*)と馬のダンス(*p*)の掛け合い部分である。Bを聴かせる前には「このあと2つの旋律の現れ方が変わるよ」と旋律の変化に着目させる。口ずさんだり手拍子・足踏みをしたりして、2つの旋律が変化しながら掛け合う面白さを確認したい。最後は、Cの重なる部分である。ここでは「2つの旋律がどのような現れ方をするのかな」とさらに2つの旋律が変化し重なっていることに着目させたい。

また、AとB・Cをそれぞれ比較し、掛け合ったり重なったりする面白さについて考えさせたい。さらに、Cについて「2つの旋律が同時に演奏されているのに、両方ともよく聴こえるのはなぜか。」と問い掛け、重なるの面白さを感じさせる工夫に着目して鑑賞させる。旋律の重なりを体で表現して対照的な旋律の重なりを可視化し、聴いたり歌ったり見たりしながら重なるの工夫について気付かせたい。

② 歌唱の学習では

「パレードホッホー」では、1、2時間目の「ファランドール」の鑑賞で学習したことを想起させながら学習を進める。「ファランドール」の2つの異なった旋律が重なった部分について、2つの旋律の両方が同じくらいの音量で演奏されているということ、対照的なリズムである、重々しくはっきりとしたリズム（王の行進）と軽やかで短く切れているリズム（馬のダンス）が重なっているということを子どもは学習している。学びの跡を分かりやすく掲示したり、体を動かす活動で分かったことを想起させたりしながら、「パレードホッホー」の $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ が重なるときにはどのような歌い方の工夫が必要か考えさせていきたい。

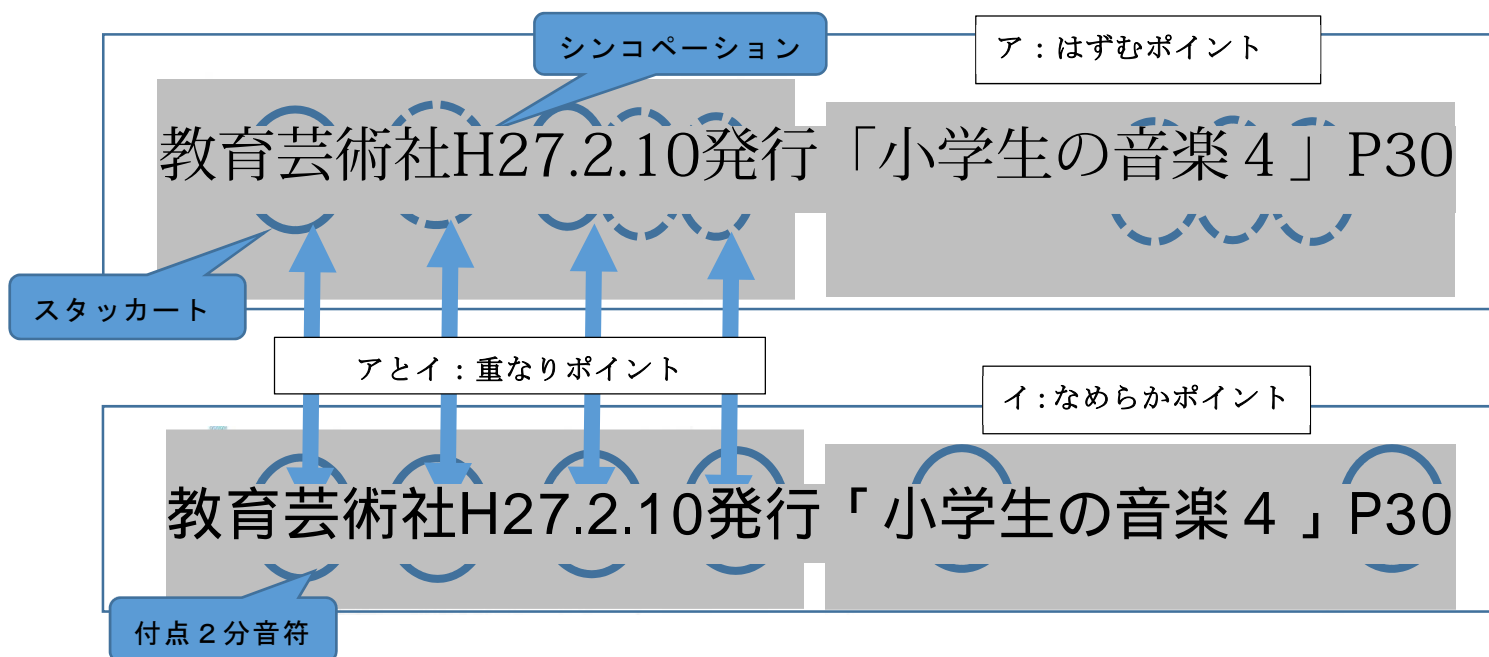
次に、「パレードホッホー」では、全員で曲全体の楽しい雰囲気をとらえ、その楽しい感じを表すために工夫するポイントを「すてきポイント」と名付ける。「すてきポイント」を見付け工夫しながら歌うというように学習を進めていく。

「すてきポイント」の具体的なポイントとしては、次のようなことがある。

- ・ $\boxed{\text{ア}}$ では、弾んだ感じがするスタッカート、シンコペーションのリズム（♪♪♪）が使われているところを「はずむポイント」とする。歌ったり楽譜から探したり手拍子で表したりしながらしっかり弾んで歌うことができるようにする。
- ・ $\boxed{\text{イ}}$ では、滑らかな感じがする付点2分音符が使われているところを「なめらかポイント」とする。 $\boxed{\text{ア}}$ と比較しながら歌ったり楽譜を探したり手の動きで可視化したりしながら滑らかに歌うことができるようにする。
- ・ $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ を重ねたときには、 $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ の両方の旋律が引き立つように歌うための工夫を「重なりポイント」とする。2つの旋律が同じくらいの声量であり、「はずむポイント」と「なめらかポイント」が重なった部分を意識して歌うことができるようにする。

このように、 $\boxed{\text{ア}}$ 、 $\boxed{\text{イ}}$ 、 $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ の重なり、それぞれについて工夫するところを「○○ポイント」と名付けて焦点化し、どの子どもも明確なゴールイメージをもって学習活動を行うようにしていきたい。

< 「パレードホッホー」のすてきポイント >



5 題材の指導計画（全5時間）

| 時 | 学習のねらい（○）と主な活動内容（・） | 評 価 | | | | |
|---|---|-----|---|---|---|---|
| | | 関 | 創 | 技 | 鑑 | 評価規準 |
| 1 | <p>○ 「ファランドール」の最初の部分を鑑賞することについて、[音色, リズム]を手掛かりにして体を動かしたり話し合ったりする活動を通して、それぞれの旋律の特徴を感じ取りその面白さに気付くことができる。</p> <p>・ 曲の最初の部分（「王の行進」と「馬のダンス」が順に演奏される部分）を聴き、感じたことを手拍子や足踏みで表現する。</p> <p>・ 表現した動きを発表し合い、それぞれの旋律の特徴を比較しながら捉える。</p> | ○ | | | | <p>曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて、進んで聴く学習に取り組もうとしている。</p> <p>（関①）</p> |
| 2 | <p>○ 「ファランドール」の中・終わりの部分を鑑賞することについて、図形譜を並べたり身体表現をしたりしながら聴く活動を通して、旋律が掛け合ったり重なったりする面白さに気付き、曲の構造から曲想を聴き取ることができる。</p> <p>・ 掛け合って演奏される中部分、重なって演奏される終わり部分に分けて聴き、聴き取った通りに「王の行進」と「馬のダンス」の図形譜を並べて曲の構造を視覚化する。</p> <p>・ 「ファランドール」の全体を聴き、最初・中部分と比較しながら、重なって演奏される部分の効果について話し合う。</p> | | | | ○ | <p>旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて聴いている。</p> <p>（鑑①）</p> |

| | | | | | |
|-------------|---|---|--|---|---|
| 3 | <p>○ 「パレードホッホー」の$\boxed{\text{ア}}$・$\boxed{\text{イ}}$部分を歌うことについて、範唱を聴いて感じ取ったことを体で表現したり楽譜から読み取れることを話し合ったりする活動を通して、二つの異なる旋律の特徴に気づき、その特徴を生かして歌うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き、感じ取ったことを体で表現する。 ・ お互いの動きを見合ったり楽譜から読み取れることを話し合ったりして、異なる旋律の特徴に気付く。 ・ 旋律の特徴がよく表れるように工夫して歌う。 | | | ○ | <p>曲想の異なる部分の面白さを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌っている。</p> <p>(技①)</p> |
| 4 本 時 | <p>○ 「パレードホッホー」の重なり部分を工夫して歌うことについて、実際に歌ったり聴いたりしてよりよい工夫について話し合ったり、複数の工夫からできそうなものを自分たちのグループに取り入れて試奏したりする活動を通して、異なる二つの旋律の特徴を生かして歌うための工夫をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $\boxed{\text{ア}}$…左半分、$\boxed{\text{イ}}$…右半分に分かれて歌い、そこから両方の旋律の特徴がよく表れるようにするための工夫について話し合う。 ・ 話し合って見つけた工夫を試しながらグループで重なり部分を歌い、よりよい工夫を考える。 | | | ○ | <p>互いの旋律が生きるようにするにはどのように工夫して歌うとよいか、思いや意図をもっている。</p> <p>(創①)</p> |
| 5 | <p>○ 「パレードホッホー」を演奏することについて、更に工夫をしたり練習をしたりする活動を通して、よりよい演奏ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の特徴がよく表れるように、お互いの声を聴き合ってさらに工夫して歌う。 ・ 工夫した演奏の仕方を全体で発表し合い、それぞれの良さや面白さを共有する。 | ○ | | ○ | <p>旋律の特徴や重なりに興味・関心を持ち、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関②)</p> <p>友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて、曲想にふさわしい表現で歌っている。</p> <p>(技②)</p> |

6 本時の計画（4時間目/全5時間）

(1) 本時のねらい

「パレードホッホー」の $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ を重ねて歌うことについて、「重なりポイント」を考えたり、歌う・聴くと立場を換えて試奏したりする活動を通して、 $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ が重なる面白さを感じ取り、両方の旋律が引き立つように歌うための工夫をすることができる。

(2) 本時の構想

前時では、「パレードホッホー」の $\boxed{\text{ア}}$ （弾む感じ）と $\boxed{\text{イ}}$ （滑らかな感じ）について、それぞれの旋律の特徴を感じ取り、その特徴を生かして歌う活動を行っている。

$\boxed{\text{ア}}$ は、言葉のリズムに合わせて手拍子を打ち、スタッカートや8分音符、シンコペーション（♪♪♪）のリズムを感じながら歌っている。 $\boxed{\text{イ}}$ は、「とおいーー」「そらーー」などの付点2分音符の部分を手動きで音の長さ（音価）を考えながら歌っている。このように、体を動かす活動を取り入れながら旋律の特徴を捉え、 $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ を比較しながら歌い進めることで、二つの旋律の特徴の違いやよさを感じ取らせている。

この前時を踏まえて、本時では、旋律の特徴が異なる $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ をすてきに重ねて歌うにはどのような工夫をしたらよいか、という重なった時の歌唱の工夫について考える活動を行う。重ねて歌うこと（合唱）は子どもにとって初めての学習内容となる。どの子どもも「やってみたい」という意欲をもって活動できるように、また、異なる旋律が重なったときの面白さを感じられるようにするために、次の2つの手立てを講じる。

- ① 「重なりポイント」(アとイの両方の旋律が引き立つように歌うための工夫)を考えさせることで、「工夫すること・工夫するところ」に焦点化した学習を展開する。

本時では、アとイの重なりをどのように工夫して歌うか考える活動を行う。その中で、アとイの両方の旋律が引き立つように歌うための工夫を「重なりポイント」と称して、「重なりポイント」を探したり、「重なりポイント」を意識して歌ったりする。

「重なりポイント」の一つ目は、声の大きさを同じくらいにして音量のバランスをよくする、ということである。アの旋律に出てくる「スタッカート部分(パ)ラタタタ」や「シンコペーションのリズム(♪♪♪)」はイの旋律に比べて音が大きくなる傾向にある。両方の旋律がよく聴こえるようにするためには、お互いの歌声を聴き合いながら声量を考えて歌う必要がある。この「相手の歌声を聴きながらバランスよく歌う」という体験を通して、すてきに重ねるには、お互いの声がよく聴こえることなんだな、ということを感じさせたい。また、お互いの声を聴き合いながら歌う楽しさも感じさせていきたい。

「重なりポイント」の二つ目は、アとイの両方の旋律の特徴部分(色部分)がはっきりと聴こえるように歌うということである。

教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P30

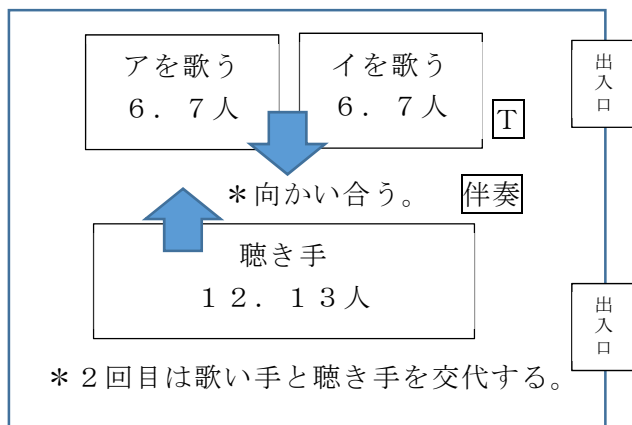
教育芸術社H27.2.10発行「小学生の音楽4」P30

ここは、前時で見つけたア「はずむポイント」・イ「なめらかポイント」が重なった部分であり、アのスタッカートとイの付点二分音符という対照的なリズムが重なっていることが楽譜から読み取れる。「ファランドール」の鑑賞で「王の行進」と「馬のダンス」の対照的なリズムが重なる面白さを学習している。鑑賞の学習で学んだことを想起させながら、それぞれで歌う以上に旋律が重なると面白いということに気付かせたい。お互いの歌声を聴きながら歌うことは重ねて歌う経験が初めての子どもたちにとっては難しいと思われる。そこで、聴き手の感想を大切に、2つの旋律が重なる面白さを実感させていきたい。

このように、「重なりポイント」を設けることで、歌い手にとっては歌う視点となり、聴き手にとっては聴く視点となる。また、聴き手が聴き終わった後にどのように感じたか話す時の視点にもなる。一時間を通して、どの立場になっても「重なりポイント」を意識しながら学習を進めていけるようにする。

- ② 歌い手・聴き手と立場を換えて試奏する活動を組織し、歌ったり聴いたりしながら歌唱の工夫を考えさせる。

どのように工夫するか考える場面では、クラスの半分を「歌い手(アまたはイ)」、残りの半分



を「聴き手」に分け、歌い手と聴き手という立場を交代しながら試奏する活動を組織する。それは、子ども全員に歌う立場だけでなく、聴く立場も経験させたいからである。2つの旋律を同時に歌うため、「歌いながら聴く」ことは難しい子どももいると思われる。聴くこともしっかりと活動に位置付け、重なる面白さを聴いて感じさせたい。

異なる旋律を歌ったり聴いたりしながら、友達と声を合わせる楽しさも感じさせていきたい。

(3) 本時の展開

| 学習活動 | 教師の働き掛けと予想される児童の反応 | ■ 評価規準 ○ 留意点 |
|---|--|--|
| <p>導入</p> <p>1 前時の振り返りから「ア・イ」の曲想を想起させ、その後にく「アイ」の重なり部分についてどのように歌うかという課題を確認する。(10)</p> | <p>T 1 この前は「パレードホッホー」を歌いました。とても上手に歌ったのですが、この歌の「すてきポイント」を覚えていますか。</p> <p>C 1 「ア」は、弾む感じになるようにスタッカートとシンコペーションを使って歌ったところ。</p> <p>C 2 「イ」は、滑らかな感じになるように、付点2分音符をしっかりと伸ばして歌ったところ。</p> <p>T 2 そうですね。「はずむポイント」と「なめらかポイント」を意識して、みんなで1番を歌ってみましょう。(ア…～33秒 イ…～50秒を続け、重なる前で伴奏を止める。)</p> <p>C 3 「はずむポイント」と「なめらかポイント」を意識して歌おう。</p> <p>T 3 弾む・滑らかがよく表現されていてよかったですよ。</p> <p>T 4 実は……、「パレードホッホー」には続きがあるので</p> <p>C 4 もう一回ずつ繰り返す？</p> <p>C 5 「ファランドール」みたいに重なってるのかな？</p> <p>T 5 では聴いてみましょう。(C 体を揺らしながら聴いている。)</p> <p>C 6 あ、重なってる！「ファランドールと同じだ！」</p> <p>T 6 その通り！「ア」と「イ」が重なっていました。例えば、「パレードホッホー」の「ア」は何色のイメージがありますか？私は「ピンク」です。(ピンクに塗られた紙を提示)「イ」はどうか？私は「青」です。(青を提示)この「ピンク」と「青」が重なるとどうなるでしょう？(青とピンクを混ぜた色を提示)すてきだと思いませんか。みんなの歌声も「ア」と「イ」が重なってすてきな歌声になるのでしょうか？</p> <p>「ア」と「イ」それぞれの「すてきポイント」を見つけて上手に歌えました。重ねて歌うときは、どんなことに気を付けるとどちらの旋律もよく聴こえてすてきに歌えるでしょう？</p> <p>C 7 どうだろう？どんなことに気を付けるといいのかな。</p> <p>T 7 では、今日の課題はこれですね。(板書する。)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(学習課題) 「アイ」の重なりをすてきに歌うにはどのような工夫をするとよいか ↑「ア」の「はずむ」と「イ」の「なめらか」が両方よく聴こえる。</p> </div> | <p>○ 言葉のリズムを表現するときには手拍子で拍を小さく打たせ、旋律の特徴の違いを確認させる。</p> <p>○ 歌詞カードのみ提示し、1番だけ歌う。</p> <p>○ クイズ形式で発問し、本時の中心となる「重なり部分」について意識させる。</p> <p>○ 「やってみよう」という言葉を拾い、期待感をもたせる。</p> <p>○ 「すてき」＝「旋律が重なることで両方の旋律が引き立つ」ということを指すが、子どもにとって分かりやすい「アもイもよく聴こえる」という表現で示す。このことを、「ファランドール」(鑑賞)の学習を想起させて共通理解させる。</p> <p>○ 重なる面白さをイメージできるように、色を使って説明し、同じ思いをもって活動できるようにする。</p> |
| <p>展開</p> <p>2 全員を二つに分けて歌ったり聴いたりしながら、どのように歌うと「すてき」になるか、工夫①について話し合う。(8)</p> | <p>T 8 さっそく、みんなを二つに分けて歌ってみましょう。</p> <p>T 9 「ア」は左半分「イ」は右半分で向かい合って歌いましょう。(C 全員で歌う。)</p> <p>T 10 どうでしたか？</p> <p>C 8 歌っているとよく分からないな。聴く人をつくればいんじゃない？</p> | <p>○ クラス全体を二つに分け向かい合って歌わせる。</p> <p>○ 歌い手・聴き手と立場を換えながら重なる面白さを感じさせる。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| | <p>T11 そうですね。聴くとよく分かるよね。では、最初は前の半分の人たちで歌いましょう。後ろ半分の人たちは、すてきに重なっているかよく聴いてくださいね。</p> <p>C9 (聴いた後) おお～！</p> <p>T12 どうして、「おお～！」なの？</p> <p>C10 アとイが両方聴こえてきてよかった！</p> <p>T13 次は交代です。後ろ半分が歌う、前半分は聴く、です。</p> <p>C11 声の大きい人が声の大きさを考えてくれたから、両方聴こえてよかった！</p> <p>T14 そうか。声の大きさを工夫して、アとイの旋律がどちらもよく聴こえるようにするといいのですね。これは、「はずむポイント」「なめらかポイント」に続く、「重なりポイント」になりそうだね。</p> | <p>○ 見付けた工夫をキーワードにして板書し、試奏するときの振り所となるようにする。</p> |
| <p>3 楽譜から探したり、試奏歌したりして、重なった部分はどのように歌うと「すてき」になるか、工夫について話し合う。</p> <p>(20)</p> | <p>T15 他に「重なりポイント」になりそうなことはないかな？</p> <p>C12 なんだろう。分からないな。</p> <p>T16 では、楽譜をみてみるとどうかな？</p> <p>C13 <u>「はずむポイント」と「なめらかポイント」が同じ場所だ！(アとイの2小節目)</u></p> <p>T17 本当だね！ここは、違う感じの旋律が重なっていますね。「はずむ」と「なめらか」が重なったらすてきなパレードホッポーになりそうだね。ではここは「重なりポイント」ですね。他にもあるかな？</p> <p>(C 3, 4, 5小節目を指示する。)</p> <p>T18 たくさんあるね。「重なりポイント」はどうやって歌うとよいのかな？</p> <p>C14 スタッカートと付点2分音符がきちんと分かるように歌えばいいんじゃない？</p> <p>T19 なるほど！「ファランドール」の時も「王の行進」と「馬のダンス」が重なって聴こえて面白かったよね。さっきと同じように二つに分かれて、今度は重なりポイントを意識して歌ってみましょうか。</p> <p>C15 スタッカートの♪(パ)ラタタタをしっかりと弾ませてよく聴こえるように歌うといいんじゃない？(歌う。)</p> <p>C16 滑らかが聴こえなくなってきたよ。♪(パ)ラタタタドラ(ム)を歌っている間はしっかり伸ばそう。</p> <p>C17 (聴き手) 両方よく聴こえるよ！面白い！！</p> <p>T20 では、交代して歌ってみましょう。</p> <p>C18 アのスタッカートは短く切っているのがよく分かったし、イのしっかり伸ばしてなめらかな感じも両方聴こえたよ。</p> <p>T21 そうか。スタッカート、付点2分音符を意識して歌っていたのですね。では、今日のまとめをしましょう。</p> | <p>○ アとイが並列になるように楽譜を提示し、<u>楽譜を見て分かるようにする。</u></p> <p>○ 「はずむポイント」「なめらかポイント」を楽譜内に書き込み、同じ部分であることが分かるようにする。</p> <p>○ C12 が出てこなかった場合、「ファランドール」の学習で、異なる旋律が重なって面白かったという経験を想起させる。</p> <p>○ 前奏→重なる部分と歌える伴奏を用意する。</p> <p>○ アとイの歌い出しがずれているので、正しく歌えるよう合図を出す。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| | <p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アとイの旋律がよく分かるように、声の大きさを考える。 ・「重なりポイント」のア…弾む（スタッカート） イ…伸ばす（付点2分音符の長さ）を意識して歌う。 <p>T22 このまとめを生かして全員で通して歌ってみましょう。</p> | |
| <p>終末</p> <p>5 演奏で工夫したことについて振り返りノートを書く。</p> <p>(7)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、工夫したことを振り返りましょう。 <p>あなたはアとイのどちらを歌いましたか。 重ねて歌う時にどんなことに気を付けて歌いましたか。</p> <p>C19 わたしは、イを歌いました。アとイの声の大きさが同じになるように、アの歌声を聴いて同じ位になるように歌いました。</p> <p>➡ 声の大きさのバランスを工夫して「音の重なり」の面白さに気付いた記述</p> <p>C20 ぼくは、弾む感じのアを歌ったので、スタッカートをはっきり出して歌って弾む感じがよく出るようにしました。</p> <p>➡ それぞれの旋律の特徴が表れる工夫をして「音の重なり」の面白さに気付いた記述</p> <p>T23 次の音楽の時間には、今日みんなで考えた工夫がよく伝わるようにさらに歌い方を練習して発表しましょうね。</p> <p>C21 はい！楽しみだな。</p> | <p>■ 互いの旋律が生きるようにするにはどのように工夫して歌うとよいか、思いや意図をもっている。</p> |

(4) 本時の評価

① 評価方法

振り返りの内容から評価する。

② 評価規準

互いの旋律が生きるようにするにはどのように工夫して歌うとよいか、思いや意図をもっているか。

③ B評価の具体的な姿

振り返りカードに、「声の大きさのバランス」もしくは「旋律の特徴がよく表れる歌い方」についての工夫が書かれている。

(例)・ わたしは、**イ**を歌いました。**ア**と**イ**の声の大きさが同じになるように、**ア**の歌声を聴いて同じくらいになるように歌いました。

➡ 声の大きさのバランスを工夫して「音の重なり」の面白さに気付いた記述

・ **ア**はスタッカートとシンコペーションをはっきり出して歌って、弾む感じがよく出るようにしました。

➡ それぞれの旋律の特徴が表れる工夫をして「音の重なり」の面白さに気付いた記述

(5) 板書計画

(別紙)

7 参考文献

- ・ 高倉弘光「子どもがときめく音楽授業づくり」2012 東洋館出版社
- ・ 中島寿・高倉弘光・平野次郎「音楽の力×コミュニケーションでつくる音楽の授業」

2016 東洋館出版社